



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月4日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <https://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 管理本部長 (氏名) 勝木 知文

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 2022年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	30,899	12.6	2,924	10.4	3,715	9.9	2,707	10.1
2022年3月期第1四半期	27,445	29.8	3,262	124.1	3,382	255.5	2,460	866.2

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 7,034百万円 (40.9%) 2022年3月期第1四半期 4,990百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	50.41	43.21
2022年3月期第1四半期	45.86	39.30

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	160,694	97,858	60.1	1,793.34
2022年3月期	155,493	91,845	58.2	1,685.37

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 96,635百万円 2022年3月期 90,446百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		18.00		20.00	38.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		20.00		20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	59,000	11.0	4,400	19.5	5,700	5.4	4,100	8.9	76.22
通期	125,000	13.9	11,500	5.5	12,900	8.2	9,000	5.2	167.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期1Q	64,633,646 株	2022年3月期	64,633,646 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2023年3月期1Q	10,747,684 株	2022年3月期	10,967,984 株
------------	--------------	----------	--------------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期1Q	53,720,737 株	2022年3月期1Q	53,639,811 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記.....	6
(1) 四半期連結貸借対照表.....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間.....	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間.....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	11
(継続企業の前提に関する注記).....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用).....	11
(セグメント情報等).....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置が終了し、一部持ち直しの動きが見られたものの、中国におけるゼロコロナ政策やエネルギー・原材料価格の高騰等により、依然として厳しい状況となりました。

このような厳しい経営環境においても、当社グループは、中期方針「未知の可能性への挑戦！」に基づき、変化し続けるお客様ニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“イノベーションと顧客開発”および“企業体質の再建”を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力、環境対応力を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第1四半期の連結業績は、売上高 308 億 99 百万円（前年同期比 12.6%増）、営業利益 29 億 24 百万円（同 10.4%減）、経常利益 37 億 15 百万円（同 9.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 27 億 7 百万円（同 10.1%増）となりました。

[セグメント別の業績概況]

(車輜資材事業)

世界的な半導体不足などによる自動車の生産調整の影響を受けたものの、海外事業（2022年1～3月）では、「クオーレ®」をはじめとする差別化商品の販売が堅調に推移し、前年同期比で増収・増益となりました。

一方、国内事業では、エネルギー・原材料価格高騰の影響を大きく受け、前年同期比で減収・減益となりました。今後、販売価格への転嫁を進めてまいります。

当事業の売上高は 183 億 2 百万円（前年同期比 12.2%増）、営業利益 19 億 91 百万円（同 11.2%減）となりました。

(ハイファッション事業)

アウトドア人口増加の影響により、スポーツアパレルは順調に推移しましたが、ファッションアパレル、インナーアパレルは消費マインドがコロナ禍前には戻らず、伸び悩みました。

また、KBセーレン(株)における原糸販売事業がエネルギー及び原材料価格高騰の影響を大きく受けました。

淘汰が進むアパレル業界では、国内外で老舗ブランドや大手アパレルの大規模な店舗数削減の動きが見られ、生き残りをかけた競争は一層厳しさを増しています。今後は、小ロット・短納期・在庫レスを実現する当社独自の「Viscotecs®」を活用した、パーソナルオーダービジネス「Viscotecs make your brand®」を時代にマッチした衣料品の製造販売プラットフォームと考え、事業の拡大に注力してまいります。

当事業の売上高は51億74百万円（前年同期比10.4%増）、営業損失29百万円（前年同期は1億9百万円の利益）となりました。

(エレクトロニクス事業)

一部のエレクトロニクス商品で、半導体不足、上海ロックダウンの影響を受けましたが、海外向けスマートフォン、タブレット用商材の受注増や、車輜向け新規用途開拓等により、柔軟性と導電性を有する素材「プラット®」及び「プラット®」の機能に伸縮性・耐屈曲性を加えた導電素材「METAFLEX®」の売上が順調に推移しました。

KBセーレン(株)においては、「ザヴィーナ®」ワイピング HDD テープの売上高が増加しました。今後は、強度・弾性率に優れた「ゼクシオン®」(LCP)や耐熱性・耐薬品性に優れた「グラディオ®」(PPS)を始めとしたエンブラ繊維において、新規顧客開拓ならびに用途開発を進めてまいります。

また、人工衛星事業については、製造、販売を開始しており、今後、量産化を目指してまいります。当事業の売上高は 30 億 39 百万円（前年同期比 19.2%増）、営業利益は 6 億 43 百万円（同 39.3%増）

となりました。

(環境・生活資材事業)

ハウジング資材関連は住宅着工戸数の回復や省エネ商材の受注増加、住生活資材関連は病院・介護向けに機能性を高めた製品の受注増加等が売上高に貢献しました。

また、産業資材関連ではエクステリア等の新規顧客開拓により売上高を伸ばし、環境・生活資材事業全体では、売上高・利益共に前年同期実績を上回りました。

当事業の売上高は23億80百万円(前年同期比16.5%増)、営業利益は2億85百万円(同3.3%増)となりました。

(メディカル事業)

化粧品事業は横ばいとなりましたが、介護・医療分野において、卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「デオエスト®」の医療向け商品が順調に推移したことや、KBセーレン(株)の貼付材とエスパンシオーネの絆創膏用途が拡大したことにより、売上高が増加しました。しかしながら、利益面ではエネルギー及び原材料価格高騰の影響を受け、減益となりました。

コロナ禍において発売した高性能抗ウイルスマスク「BYERUS®」の開発で培った抗ウイルス技術については、インテリア、介護分野等、異なる分野へ応用展開を進めております。

当事業の売上高は17億76百万円(前年同期比9.7%増)、営業利益は2億57百万円(同30.6%減)となりました。

(その他の事業)

株ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業が堅調に推移しました。

当事業の売上高は2億25百万円(前年同期比4.3%減)、営業利益は1億37百万円(同3.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して52億円増加の1,606億94百万円となりました。流動資産は、受取手形、売掛金及び契約資産の増加等により、前連結会計年度末と比較して31億8百万円の増加となりました。固定資産は、設備投資や、海外子会社の財務諸表の換算レートが円安になったことにより有形固定資産が増加し、前連結会計年度末と比較して20億92百万円増加しました。負債の部は、未払金の減少や借入金の返済などにより、8億12百万円減少し、628億35百万円となりました。純資産は、為替換算調整勘定の変動や、利益剰余金の増加などにより、全体で60億13百万円増加し、978億58百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は343億14百万円となり、前連結会計年度末より11億37百万円減少しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、17億10百万円の収入(前年同期は16億53百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益37億15百万円、減価償却費12億25百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、25億75百万円の支出(前年同期は2億46百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が29億94百万円あったことなどによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、15億62百万円の支出(前年同期は13億36百万円の支出)となりました。これは主に、配当金の支払による支出10億73百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期以降の世界経済は、世界的な半導体不足の継続、ロシア・ウクライナ問題等により、依然として先行きが不透明な状況となっております。このような状況の中、引き続き、未知の可能性に挑戦し、“イノベーションと顧客開発”により、差別化商品の拡販、徹底的な生産の効率化等により、増収・増益と企業体質強化を目指します。

第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、エネルギー、原材料価格および物流費の高騰の影響を受けるものの、通期業績見通しは、売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高になる見込みです。

2023年3月期 第2四半期連結業績予想数値の修正 (2022年4月1日~2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 59,000	百万円 5,400	百万円 5,400	百万円 3,900	円 銭 72.67
今回修正予想 (B)	59,000	4,400	5,700	4,100	76.22
増減額 (B-A)	—	△1,000	300	200	
増減率 (%)	—	△18.5	5.6	5.1	
(ご参考) 前第2四半期実績 (2022年3月期第2四半期)	53,131	5,464	6,023	4,498	83.85

2023年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2022年4月1日~2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 125,000	百万円 12,500	百万円 12,600	百万円 8,800	円 銭 163.98
今回修正予想 (B)	125,000	11,500	12,900	9,000	167.18
増減額 (B-A)	—	△1,000	300	200	
増減率 (%)	—	△8.0	2.4	2.3	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	109,771	10,901	11,927	8,553	159.43

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,808	37,227
受取手形、売掛金及び契約資産	28,921	32,104
有価証券	785	781
商品及び製品	12,963	13,307
仕掛品	3,594	3,567
原材料及び貯蔵品	5,963	6,556
その他	2,483	3,085
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	93,513	96,621
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,277	22,418
機械装置及び運搬具（純額）	11,038	11,608
工具、器具及び備品（純額）	435	503
土地	12,544	12,677
リース資産	103	82
建設仮勘定	4,155	4,319
有形固定資産合計	49,553	51,611
無形固定資産		
のれん	801	760
その他	3,140	3,211
無形固定資産合計	3,941	3,972
投資その他の資産		
その他	8,594	8,598
貸倒引当金	△109	△109
投資その他の資産合計	8,485	8,489
固定資産合計	61,980	64,072
資産合計	155,493	160,694
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,648	16,966
短期借入金	3,813	5,126
未払法人税等	1,478	1,026
賞与引当金	1,233	493
その他	7,433	6,825
流動負債合計	29,607	30,438
固定負債		
新株予約権付社債	15,330	15,307
長期借入金	10,609	8,832
役員退職慰労引当金	131	119
退職給付に係る負債	6,485	6,521
その他	1,485	1,616
固定負債合計	34,041	32,397
負債合計	63,648	62,835

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,786	16,769
利益剰余金	66,952	68,586
自己株式	△14,385	△14,092
株主資本合計	86,873	88,783
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,005	2,056
為替換算調整勘定	1,487	5,721
退職給付に係る調整累計額	79	75
その他の包括利益累計額合計	3,572	7,852
新株予約権	787	567
非支配株主持分	610	654
純資産合計	91,845	97,858
負債純資産合計	155,493	160,694

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	27,445	30,899
売上原価	19,145	22,322
売上総利益	8,300	8,576
販売費及び一般管理費	5,037	5,652
営業利益	3,262	2,924
営業外収益		
受取利息	55	70
受取配当金	75	75
為替差益	—	504
雇用調整助成金	51	8
補助金収入	89	109
その他	54	52
営業外収益合計	325	820
営業外費用		
支払利息	8	8
為替差損	187	—
その他	10	20
営業外費用合計	205	28
経常利益	3,382	3,715
特別利益		
固定資産売却益	23	0
特別利益合計	23	0
特別損失		
固定資産処分損	1	0
投資有価証券評価損	195	—
特別損失合計	196	0
税金等調整前四半期純利益	3,208	3,715
法人税等	728	992
四半期純利益	2,480	2,722
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	14
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,460	2,707

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	2,480	2,722
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△94	50
為替換算調整勘定	2,607	4,265
退職給付に係る調整額	△3	△4
その他の包括利益合計	2,510	4,311
四半期包括利益	4,990	7,034
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,962	6,987
非支配株主に係る四半期包括利益	28	46

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,208	3,715
減価償却費	1,120	1,225
投資有価証券評価損益 (△は益)	195	—
固定資産処分損益 (△は益)	△21	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△771	△740
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1	18
受取利息及び受取配当金	△130	△146
支払利息	8	8
為替差損益 (△は益)	△110	△474
売上債権の増減額 (△は増加)	889	△1,802
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△848	47
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,078	487
未払消費税等の増減額 (△は減少)	30	87
その他	△145	390
小計	2,345	2,816
利息及び配当金の受取額	108	117
利息の支払額	△8	△10
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△792	△1,212
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,653	1,710
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△998	△2,994
有形固定資産の売却による収入	32	0
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△12	△14
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	518	—
定期預金の純増減額 (△は増加)	310	443
その他	△96	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△246	△2,575
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△344	△463
配当金の支払額	△965	△1,073
非支配株主への配当金の支払額	—	△2
その他	△26	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,336	△1,562
現金及び現金同等物に係る換算差額	956	1,290
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,025	△1,137
現金及び現金同等物の期首残高	39,498	35,451
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,523	34,314

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
顧客との契約から生じ る収益	16,309	4,687	2,550	2,042	1,618	27,209	93	27,303	—	27,303
その他の収益	—	—	—	—	—	—	141	141	—	141
外部顧客への 売上高	16,309	4,687	2,550	2,042	1,618	27,209	235	27,445	—	27,445
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	7	55	13	1	78	125	204	△204	—
計	16,310	4,695	2,605	2,056	1,620	27,288	361	27,649	△204	27,445
セグメント利益	2,243	109	461	276	370	3,461	141	3,603	△340	3,262

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
顧客との契約から生じ る収益	18,302	5,174	3,039	2,380	1,776	30,674	94	30,768	—	30,768
その他の収益	—	—	—	—	—	—	130	130	—	130
外部顧客への 売上高	18,302	5,174	3,039	2,380	1,776	30,674	225	30,899	—	30,899
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	9	67	3	2	83	141	224	△224	—
計	18,302	5,183	3,107	2,384	1,779	30,757	366	31,124	△224	30,899
セグメント利益又は損失 (△)	1,991	△29	643	285	257	3,147	137	3,284	△360	2,924

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車両資材……………自動車・鉄道車両等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システム及びサブ
ライ、電子機器、シリコンウエーハの成膜加工等、人工衛星
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材
- (5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販
売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第1四半期連
結累計期間356百万円、当第1四半期連結累計期間374百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セ
グメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。